

式回答ヲ待タズシテ公布手續ヲ了スル事例多ク案件處理上支障少カラザ  
ルニ鑑ミ、爾今官報掲載ニ關スル事務ヲ所掌スル文書課等ニ於テ右回答  
到達ヲ確認セタル後ニ公布手續等ノ措置相成ルヤウ致度

9.11

課長

第一號

十二月十九日

拾五保

五四五六

企畫院文發第二七〇號

昭和十六年十月二十三日

企畫院次長 宮本武之輔



陸軍次官 本村 兵太郎 殿

國家總動員法施行ノ協議ニ關スル件

各廳ニ於テ國家總動員法ニ基ク各勅令ヲ施行スルニ付必要ナル命令ヲ制定シ又ハ廢止變更セントスルトキハ昭和十四年勅令第六百七十二號「國家總動員法等ノ施行ノ統轄ニ關スル件」ニ依リ、又國家總動員法ニ基ク勅令各本條ニ依ル處分ヲ行ハントスルトキハ、各勅令ノ定ムル處ニ依リ其重要事項ニ付夫々豫メ內閣總理大臣ニ協議相成ルベキコトト定メラレ、之等總動員法關係ノ命令告示等ハ當然內閣總理大臣ヨリノ回答到達ヲ俟ツテ公布其ノ他ノ措置相成ルベキ筈ノ處、從來各廳共右協議ニ對スル正

陸軍省

陸軍省  
拾年保  
五七〇五

企畫院文發第三〇六號

昭和十六年十一月六日

企畫院總教官房文書課長 内田 謙兵衛

陸軍次官 木村兵太郎 殿

願書、建議書等ノ處理ニ關スル件

標記ノ件ニ關スル九月分要旨調製致候條制参考迄ニ及送付候條制查收  
相成度候

軍務外備  
工務  
經理局  
各一

左記通一紙布一云々



十一月十九日

第一七九

軍務

秘閣

内閣閣中弟四二六號

昭和十六年十一月十一日

拾年保

五〇三

陸軍省  
昭和十六年十一月十三日  
大官

陸軍省  
16.11.13  
11735  
軍務課

内閣書記局長 星野直樹

陸軍大臣 東條英機 致

産業設備營團設置要綱ニ關スル件

産業設備營團設置要綱別紙ノ通閣議決定相成候様依命此段及通候様

岡田(研)

陸軍省



産業設備營團設置要綱

時局ノ緊迫化ニ伴ヒ軍需産業、生産補充産業其ノ他ノ國家緊要産業ノ  
事業設備ニシテ待ニ國家ニ於テ施設スルノ要アルモノヲ建設シ或ニ未  
完成設備及遊休設備ノ活用ヲ圖ルノ要緊切ナルモノアリ仍テ第七十七  
條會ニ必要ナル法律案及豫算案ヲ提出シ左記要領ノ符殊法人産業設備  
營團ヲ設置セントス

記

一、目的

産業設備管團ハ戦時（戦中ニ準ズル事變ノ場合ヲ含ム）ニ際シ軍需産業、生産補充産業其ノ他ノ國家緊要産業ノ事業設備ニシテ待ニ國家ニ於テ施設ノ要アルモノヲ建設シ或ニ未完成設備及遊休設備ノ活  
用ヲ圖ルコトヲ目的トスルコト

二、資本金

産業設備管團ノ資本金ハ二億圓トシ第一回ノ拂込金ハ五千萬圓トス  
ルコト

政府ハ二億圓ヲ産業設備管團ニ出資スベキコト

前項ノ出資ハ國債證券ヲ交付シテ之ヲ爲スコトヲ得ルコト

三、役員

産業設備管團ニ總裁副總裁各一人、理事及監事若干人ヲ置クコト  
總裁、副總裁、理事及監事ハ主務大臣之ヲ命ズルコト

産業設備管團ニ主務大臣任命ノ評議員若干人ヲ置キ總裁ノ諮問ニ應  
ジ又ハ之ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得シムルコト

#### 四 業務

(一) 産業設備管團ハ左ノ業務ヲ行フコト

(1) 國家緊要産業ノ事業設備ノ建設、貸與、出資及買

(2) 未完成設備又ハ遊休設備ノ買及保有

(3) 未完成設備又ハ遊休設備ノ活用ニ關スル斡旋

(4) 前各號ノ業務ニ附帶スル事業

産業設備管團ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ前項ニ徇グル事業以外ノ業  
務ヲ行フコトヲ得ルコト

(二) 産業設備管團ハ未完成設備又ハ遊休設備ノ買受代金ニ付テハ國債  
證券ヲ交付シ得ルコト

(三) 政府ハ本管團ニ對シ設備買取代金ヲ國債證券ヲ以テ交付スベキコ  
トヲ命令シ得ルト共ニ本管團ニ設備ヲ賣却シタル者ニ對シ賣却代

金ノ處分ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得ルモノトスルコト

### 五 産業設備債券

産業設備管團ハ差當リ拂込資本金額ノ五倍ヲ限リ産業設備債券ヲ發行スルコトヲ得ルコト

政府ハ産業設備債券ノ償還及利息ノ支拂ヲ保證スルコトヲ得ルコト

### 六 監督及補助

(一) 主務大臣ハ産業設備管團ノ業務ヲ監督スルコト

(二) 政府ハ産業設備管團ニ對シ其ノ業務ニ因リテ受ケタル損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得ルコト

### 七 其ノ他

主務大臣ハ設立委員ヲ命ジ産業設備管團ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシムルコト



十二月十九日

原簿記帳簿  
昭和16年  
受領證送付

第一八〇



現不書類掛保管



|          |      |         |    |
|----------|------|---------|----|
| 標記       |      | 機密      |    |
| 件名       | 文書番號 | 一連番號及部數 | 自至 |
| 丁方経済対策要綱 |      | 10      | 部  |

貴廳宛左記文書配付致候間御查收ノ上領收票御送附相煩度候也

陸軍省機密文書取扱主任官殿

企畫院總裁官房文書課長

機密文書配付票 甲

企畫院 第 號別紙  
昭和16年12月12日

No 583



拾年標

大蔵省 總理用トシテ  
別ニ所持セラレタル付  
本取、陸軍省有テ保蓄  
セラル度  
野村 督

次官ヨリ内閣書記官長宛通條案

(陸密)

十二月十三日附内閣々甲第四八二號ニ依ル  
首題ノ件ニ関スル當方ノ希望意見  
別冊ノ通ナルニ付之カ實現方ニ関シ  
然ルヘク取計ヒ相成度及通條候  
也

陸密第三八八一號

昭和拾六年三月拾八日



拾五

保存期限

決裁指定

決行指定

大臣

第一九一號

|      |    |                    |       |          |     |
|------|----|--------------------|-------|----------|-----|
| 大臣   |    | 件名                 |       | 受番       |     |
| 閣    |    | 緊急要員行々要スル内政政策ニ関スル件 |       | 壹第 六三四九號 |     |
| 局長   | 主務 | 次官                 | 政務    | 次官       | 政務  |
|      |    |                    |       | 參與官      |     |
| 課長   | 主務 | 高級                 | 副官    |          |     |
|      |    |                    |       |          |     |
| 主務課員 | 主務 | 主務副官               | 官房御用掛 | 書記官      |     |
|      |    |                    |       |          |     |
|      |    |                    |       | 審案       | 筆記者 |
|      |    |                    |       |          |     |

政務次官 回付 決裁前連帶 參與官 課名

決行(決裁)後 回覽 課名

起元廳(課)名

内閣

主務局長 受領 昭和 年 月 日

主務課長 受領 昭和 年 月 日

大臣官房 受領 昭和 年 月 日

了結 昭和 年 月 日

提提出 昭和 年 月 日

番號 壹第 六三四九號

連帶 局長

決行後 局長

決裁後 局長

課長

主務課員

大臣 官

昭和 一六 一三 一六  
陸軍省

緊急實行ヲ要スル内政政策ニ關スル陸軍ノ希望

今次ノ對米、英、蘭洲戰ニ伴ヒ速ニ國防國家態勢確立ノ爲左ノ内政政策ノ速カナル斷行ヲ要望ス

一 國民生活ノ確保

現下ノ國民生活上陸軍トシテ最モ關心ヲ拂ヘルモノハ生活必需品特ニ食糧ノ確保ト産業ノ再編成ニ伴フ轉出業者ノ處置トニ存ス依リテ左記事項實現方ニ關シ關係當局ノ速カナル善處ヲ希望ス

二 國民生活必需品特ニ食糧ノ供給確保

(4) 配給機構等ノ整備

府縣「プロック」ノ打破

消費者組織ノ整備（闇取引、賣惜、買溜等ノ不正行爲ヲ撲滅  
シ配給ノ圓滑化ヲ重點トス）

切符制ノ擴充（主要必需品ノ公平化ヲ目的トス）

小運送ノ整備

公定價格ノ再檢討

外食券ノ使用、擴充ニ付研究

主要食糧品ノ割當數量ノ合理化

監察機構ノ整備

(四) 供給源ノ確立

綜合増産計畫ノ策定（代替品ヲ含ミタル多角形綜合計畫ノ確立）

國家貯藏施設ノ促進

(五) 戦時生活化ノ促進

興費運動ノ徹底ニ依ツテ國民ノ消費規正ヲ強化シ進ンデハ長期持久ニ對處スル戦時生活規範ノ確立ヲ期ス

2 轉出業者ノ對策

(1) 厚生省、商工省等ノ所管ニツキ明確ナラシムルモノトス

(2) 時局ニ伴フ國民經濟再編成ノ上ニ立脚セル根本的ナル轉出業

對策ヲ樹立策定セラレタシ

現在ノ諸對策ハ未タ應急彌縫策ノ範圍ニ出テス、深刻化セル  
現狀ヲ解決スルニ至ラサルヲ以テ社會ノ不安ヲ醸成シツツア  
ルヤニ看取セラルルモノアルヲ以テ速カニ全般的身務配置並  
ニ業種配置計畫（開拓農民等ノ大陸移住計畫等ヲ含ム）ヲ策  
定スルノ要アリ

（ハ）職業訓練所ノ設置

轉出業者ニ對シ應急救助ノ途ヲ講スルニ止マラス自力更生ノ  
基礎ヲ確立セシムル爲國家ノ施設スル職業訓練所ヲ設置シ將  
來發展ニ必要ナル技能ヲ授クルノ要ヲ痛感ス

### 3. 國民更生施設

#### (1) 軍事援護ノ徹底

應召者ノ家族及遺家族ノ保障並ニ傷病兵生活ノ再建ニ就テハ未タ十分ナラサルモノアリテ國民ノ志氣上觀過シ得サルモノアルヲ以テ更ニ適切ナル措置ヲ講セラレタシ

#### (2) 國民体位ノ維持向上ニ就テ

食糧、住宅、醫療トノ現況ハ動モスレハ國民ノ保健育兒營養ニ關シ缺陷ヲ生セシムルモノアリ、國家永遠ノ發展上放置シ得サルモノアルヲ以テ國家トシテ一層保健施設、健全娛樂施設、醫療施設（醫員ノ徵用、醫藥ノ統制ヲ含ム）育兒對策等



ニ就キ考慮ヲ拂フノ要アルヘク之カ財源トシテ保健醫療ノ活  
用、厚生事業税ノ創設等ノ工夫ヲ講スルヲ要ス

右ハ政府機關トシテノ對策ヲ列舉セルモノナルモ之カ實施ノ速  
正化ヲ期スル爲ニハ大政翼賛會ノ實踐活動ヲ熾烈ナラシムルコ  
ト肝要ナリト思惟シアリ

三 經濟對策

戰力向上第一主義ニ基キ官民ノ非常ナル努力ニ依リ概ネ軌道ニ乘  
リタルモ左記對策ノ徹底ヲ圖ルノ要アルモノト認ム

一 戰時勞務体制ノ確立ト勞務管理ノ強化（國民皆勞主義ノ徹底）

二 輸送力ノ整備増強（特ニ戰時船舶ノ急造）

三 産業ノ合理化再編成（生産力ヲ重點國防産業ニ集中）

四 貿易管理ノ強化（自給自足經濟ヲ確立スルコトヲ目的トシ東亞

共榮國內ノ物資交流ヲ規正）

五 統制會ノ育成強化ト國策會社ノ再檢討（統制會機能ノ敏活發揮  
ノ爲統制會相互間ノ調整機構ノ整備並ニ國策會社ノ運営改善）

### 三、國內体制ノ強化

#### ノ政治行政機構ノ整備改善

前記マニノ政策實行ノ的確敏速ヲ期スル爲必要ナル行政機構ノ改革整備ヲ逐次實施セラレタシ

今日最モ弊害アリト痛感セラレアル左ノ點ニ關シテハ速ニ調整ノ措置ヲ講セラレタシ

(イ) 生産消費及配給部門ヲ通シ成ルヘク一系統化スル如ク各省、各部局ノ所管事務ニ調整ヲ加ヘ責任ノ所在ヲ明確ニス

(ロ) 海運行政及勞務行政ノ機構ヲ強化刷新ス、海運行政ニ就テハ既定計畫ノ速愈ナル實現ニ努メラレタク又勞務行政ニ就テハ

勞務統制並管理ヲ十全ナラシムルノ要アリ

(一) 内外地經濟行政ノ統一化ヲ促進ス

(二) 日滿支ヲ骨幹トスル自給自足經濟ノ確立ヲ速カナラシムル爲  
現行日滿支經濟協議會ノ機構ヲ再檢討シテ之ヲ強化スルノ要  
アリ

## 2 吏道ノ刷新向上

行政ノ滲透ヲ圖リ經濟運営ノ適切ヲ期シ國民精神ノ昂揚ニ資ス  
ル爲官吏ノ服務ヲ積極化シ演職行爲ヲ絕無ナラシムル要アリ、  
サレハ一層各監督官廳ニ於テ訓練指導ノ適正、直接取締ノ嚴格  
信賞必罰ノ勵行等一層的確ナル措置ヲ講セラレタシ

### 3. 大政翼賛會ノ育成強化

戰時政策ノ徹底ト國民生活確保ノ爲ニハ行政機構ノ活動ト表裏  
一体的關係ニ於テ國民ノ激刺タル組織的活動ヲ促進シ以テ國民  
總協力ノ体制ヲ確立スルコト絕對ニ必要ナリ、之ヲ爲ニハ政府  
トシテハ大政翼賛會ノ育成ニ努ムルト共ニ全國ノ官吏ヲシテ翼  
賛會ノ運動ニ全幅ノ支援々助ヲ與フルニ至ラシムル如ク指導セ  
ラレタシ

### 4. 政治勢力ノ結集

來ルヘキ改選期ニ於テ眞ニ時局ニ目醒メ翼賛理念ニ透徹セル議  
員ヲ多數獲得シ強力ナル政治施行ニ便ナル如ク關係省ニ於テ今

ヨリ周密ナル準備ヲ進メラレタシ

陸  
軍

閣下第四八二號  
陸軍大臣  
第六三四九



昭和十六年十二月十三日

内閣書記官長

星野直樹



陸軍大臣 東條英機殿

總務

21

办政班

付候  
本月九日内閣總理大臣ノ發言ノ要領ハ別紙ノ通ニ有之候條爲念及送

追テ當時申述ベラレタル通具體案ハ必ズ本月二十日迄ニ内閣總理大臣ニ御提示相成度依命此段申進候

各班用覽



今次大東亞戰爭ノ規模ハ廣大ニシテ且長期ニ亘ルベシ。而シテ武力戰  
ノ成功ニハ疑ナキモ、本戰爭ノ成敗ハ一ニ高度國防國家体制ノ完成ノ  
如何ニ懸ルモノト思考セラル次第ナリ。而シテ高度國防國家体制建設  
ニ方リ最モ意ヲ用フベキハ生産力ノ擴充ト國民生活ノ確保ノ二點ニ在  
リ。國防重要産業ノ生産力擴充ニ就キテハ、既往ニ於ケル官民ノ努力  
ニ依リ政策ノ方向ハ一應軌道ニ乘リタル觀アルモ、今後加重スベキア  
ラユル困難ヲ克服シ、強力ニシテ堅實ナル實行ノ成果ヲ擧ゲシガ爲ニ  
ハ、一段ノ努力ヲ要スルノミナラズ、國民生活ノ確保ト其志氣ノ昂揚  
トヲ圖ルコトハ、特ニ刻下ノ急務ニ屬ス。

依テ政府ハ如上ノ實情ニ鑑ミ國民精神ノ昂揚ノ爲ノ方策ヲ徹底シ國民



生活ノ戰時体制化ト其ノ安定トヲ確保シ、戰爭遂行力強化ノ基礎ヲ速  
急ニ確立スル爲、之ガ具現ニ必要ナル行政機構ノ整備調整、戰時經濟  
体制ノ確立、國民生活ノ確保並ニ其厚生施設其他各般ノ緊急政策ヲ樹  
立スルノ要アリト信ズ。

而シテ之ガ爲ニハ新ニ政策ヲ樹立スベキモノ、既ニ方針要綱等ニシテ  
決定セラレタルモ未ダ實行ニ移ラザルモノ、既ニ實行ニ移リタルモノ  
モ徹底セザルカ或ハ改善ヲ要スルモノ等ニ亘リ、此際速ニ適切ナル方  
策ヲ樹テ之ガ實行ヲ促進スルノ要アリ。

又戰時經濟統制ノ爲、往々ニシテ實行ニ當ル官公吏ノ權限増大ニ伴ヒ、  
或ハ腐敗墮落或ハ無能不熟等ノ爲、各種ノ弊害續出ノ傾向アリ。又中  
央ノ處務地方ノ實情ニ合セザルモノ無シトセザルニ鑑ミ、監察検査等

ノ必要ヲ感ズル次第ナリ。

各省等ハ以上ノ趣旨ニ基キ、具体策ヲ至急立案ノ上本大臣ノ下ニ提示  
セラレ度ク、本大臣ハ之ヲ取纏メノ上閣議ニ附シ、着々實行ニ移シ度  
シト思料ス。

訓

拾年保

松本

陸軍省 陸軍部 第六四八號

內閣官乙第四九號

昭和十六年十二月十七日

陸軍省 陸軍部 16.12.18 午前 大臣

内閣書記官長 星野直一樹



# 陸軍次官木村兵太郎殿

公務大臣以下拜過

明十八日左記諸員ニ拜謁被仰付旨別紙ノ通官内大臣ヨリ通牒有之候條貴省内關係ノ向ヘ可然通達相成度依命此段及通牒候

記

國務大臣

十二月二十日

加

陸軍省 陸軍部 第六四八號

和官

甲

政 府 委 員

各 省 次 官

各 省 大 臣 祕 書 官

昭和十六年十二月十七日

宮内大臣 松平恒雄

内閣總理大臣 東條英機殿

# 本日

來ル十八日左記諸員ニ拜謁被仰付候條通常服軍裝着用午后二時十分  
參内候様御取計相成度候

記

國務大臣

政府委員

各省事務次官

內閣書記官

內閣總理大臣祕書官、各省大臣祕書官、國務大臣祕書官

十二月廿四日

陸軍省

開

拾年保

内閣閣甲第四九一號

方野大

昭和十六年十二月十九日



内閣書記局長 星野直樹



陸軍次官 木村兵太郎殿

來ル通常議會ニ對スル準備ノ件

標記ノ件別紙ノ通閣議決定相成候様可然御配意相成度

省内外課ト連絡ス



來ル通常議會ニ對スル準備ノ件 (十月十九日閣議決定)

時局ニ鑑ミ來ル通常議會ニ於テハ極メテ短明間ニ豫算案及法律案ヲ通過セシムルノ要アルヲ以テ之ガ爲政府ニ於テハ左記方針ヲ決定スルコトト

記

一、法律案ハ戰爭遂行ニ直接關係アルモノノミニ限定シ其ノ件數ハ出來得ル限り少カラシムルコト

二、内閣及各省ニ於テハ法律案及豫算案ノ提出準備ヲ急速ニ完了シ、以テ兩院ノ審議促進ヲ明スルコト。之ガ爲豫定期日ヲ左記ノ通定ム。

(1) 提出スベキ法律案件名決定



十二月二十五日

(回) 法律案要綱ノ決定

昭和十七年一月七日

(四) 法律案決定

昭和十七年一月十五日

三、追加豫算案ハ昭和十七年一月十五日迄ニ決定シ爾後ハ追加豫算案ノ  
提出ヲ爲サザルコト

高級副  
官委任

保存期限

決裁指定

決行指定

二二

|               |               |               |               |               |               |               |                 |                       |               |                               |                  |                       |    |                       |           |
|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|-----------------------|---------------|-------------------------------|------------------|-----------------------|----|-----------------------|-----------|
| 大臣            |               | 大臣            |               | 大臣            |               | 大臣            |                 | 件名<br>統計職員養成所入學者推薦関係件 | 受番<br>壹第五八九九號 | 政務次官<br>回付<br>決裁前<br>連帶<br>課名 | 起元應(課)名<br>内閣統計局 | 決行(決裁)後<br>回覽課名<br>統計 | 陸軍 |                       |           |
| 局長            | 次官            | 次官            | 政務次官          | 參典官           | 書記官           | 審案            | 高級副官<br>副官<br>原 |                       |               |                               |                  |                       |    | 主務副官<br>官房御用掛<br>主務課員 | 審案<br>書記者 |
| 主務局長          | 高級副官          | 副官            | 參典官           | 書記官           | 審案            | 書記者           |                 |                       |               |                               |                  |                       |    |                       |           |
| 昭和三十六年十一月二十一日 | 昭和三十六年十一月二十一日 | 昭和三十六年十一月二十一日 | 昭和三十六年十一月二十一日 | 昭和三十六年十一月二十一日 | 昭和三十六年十一月二十一日 | 昭和三十六年十一月二十一日 | 昭和三十六年十一月二十一日   |                       |               |                               |                  |                       |    |                       |           |

拾年保

原

常

下

昭和三十六年十一月二十一日

昭和三十六年十一月二十一日

決行(決裁)後  
回覽

局長

局長

長課

長課

陸軍

陸普

次官ヨリ内閣統計局長川島孝彦へ通牒

十一月十五日附局發第七七三號ニ依ル昭和十六年度統計職員養成所ニ入學セシムヘキ候補者トシテ左記者ヲ推薦致度別紙履歷書及健康診斷書相添ヘ此段及依頼候也

追テ本人ハ本省雇員ニシテ養成所修業後ニ於テ本省ニ於テ統計事務ニ從事セシムヘキ者ニ付申添フ

昭和十六年度統計職員養成所開設要綱四ノ七該當者

陸軍大臣官房雇 秋野功一

陸普第八六一二號

昭和十六年十二月廿貳日



統計

# 大日本帝國政府

陸軍省  
受領  
局發第七七三號

五八九九號

昭和十六年十一月十五日



内閣統計局長 川島孝彦



陸軍次官 木村兵太郎 殿

統計職員養成所ニ關スル件

本局ニ於テ毎年開設ノ統計職員養成所ハ本年度モ別紙要綱ニ依リ開設  
スルコトト相成候條貴廳職員ヲシテ入學セシムルノ御希望有之候ハバ  
別添推薦取扱方御参照ノ上來ル十二月十日迄ニ御推薦相成度此段及御  
照會候

統計局



別紙

昭和十六年度統計職員養成所開設要綱

一、目的

各廳ニ於テ直接統計編整ノ事務ニ従事スル雇員級ノ者及將來統計職員  
タラントスル一般ノ者ノ教養ヲ爲スト共ニ實務上必要ナル統計理論ノ  
概要ヲ授ケ且ツ基本的練習ヲ施スモノトス

二、場所

内閣統計局内（東京市麻布區富士見町一番地）

三、開設期間

昭和十七年一月十日（土）乃至同年三月三十日（月）

四、生徒資格

休日ヲ除ク毎日午前九時ヨリ午後四時迄、但シ土曜日ハ正午迄  
（一）各廳ニ於テ現ニ統計ノ事務ニ従事シ又ハ本養成所修業後統計ノ事務  
ニ従事セシメントスル雇員級ノ者

五、入學科目

（二）本養成所修業後官廳統計ノ事務ニ従事セントスル一般ノ者  
約四十名

六、學科目

- （一）教養
- （二）統計學汎論
- （三）人口統計
- （四）労働統計

- (五) 經濟統計
  - (六) 産業統計 (商工統計、農林統計)
  - (七) 統計經濟論
  - (八) 統計表作成法
  - (九) 統計圖作成法
  - (十) 計算法
  - (十一) 数理統計
  - (十二) 珠算
  - (十三) 計算器使用法
  - (十四) 實地見學
  - (十五) 學費補助
- 一月、四月、七月、十月、各二十圓、但シ現職アル者及東京市内現住ノ者及之ニ準ズベキ者ハ適宜減額シテ支給
- 八、其ノ他本要綱ニ定メナキ事項ニ付テハ別添統計職員養成所規程ニ依ル

別添

推薦取扱方其ノ他ニ關スル件

一、入學志願者ハ統計職員養成所規程第八條ニ該當シ年齢二十五歳未滿ナルコト

但シ女子ハ各自宅ヨリ通學シ又ハ東京市内ニ確實ナル保護者ヲ有シ保護者宅ヨリ通學シ得ル者ニ限ル

二、入學志願者ハ昭和十六年度統計職員養成所開設要綱四ノ(一)及(二)ヲ區別シテ推薦スルコト

三、推薦書ニハ左記書類ヲ添付スルコト  
要綱四ノ(一)該當者 履歷書及健康診斷書  
要綱四ノ(二)該當者 入學願書、履歷書、健康診斷書及最終學校卒業成績證明書

但シ女子ニ付テハ保護者氏名、年齢、住所及本人トノ續柄ヲ履歷書ニ附箋スルコト

四、入學志願者二名以上有ル場合ニハ要綱四ノ(一)及(二)毎ニ推薦ノ順位及其ノ理由等参考トナルベキ事項ヲ附記スルコト

五、要綱四ノ(一)ノ者入學中ハ現職ノ儘トシ修業後歸應スルモノトスルコト

六、推薦ハ十二月十日迄ニ本局ニ到達スベキコト推薦期限ニ遅ルル場合ニハ銓衡ニ漏ルル場合アルベキヲ以テ期限ヲ嚴守セラレタシ

統計職員養成所規程

(大正十一年十月六日內閣告示第五號)

改正 大正十一年第六號、十三年第四號

第一條 統計職員養成ノ爲統計局ニ統計職員養成所ヲ置ク

第二條 所長ハ統計局長ヲ以テ之ニ充テ講師、主事及書記ハ統計局ノ職員ノ中ヨリ之ヲ命ス但シ講師ハ必要ニ應シ他ニ囑託スルコトアルヘシ

第三條 生徒ノ定員ハ八十人トス

第四條 生徒ノ入學ノ時期及修業期間ハ其ノ都度之ヲ定ム

第五條 學科目左ノ如シ但シ時宜ニ依リ其ノ一部ヲ省略シ又ハ他ノ學科目ヲ加フルコトアルヘシ

一 統計汎論

一 数理統計

一 人口靜態統計附國勢調査

一 經濟學

一 人口動態統計

一 經濟政策

一 經濟統計

一 社會政策



一 社會統計

一 社會學

一 法制大意

一 財政學

一 英語

一 數學

第六條 生徒ニハ修業期間内便宜ノ時期ニ於テ統計事務ノ實習ヲ爲サシム

第七條 入學セムトスル者ハ入學願書(第一號書式)ニ履歷書(第二號書式)ヲ添附シ出願スヘシ

第八條 入學志願者ハ左記各號ニ該當スルヲ要ス

一 中學校ヲ卒業シタル者又ハ所長ニ於テ之ト同等以上ノ學力ヲ有ス

二 ト認ムル者

二 品行方正身體強健ナル者

第九條 入學ヲ許可セラレタル者ハ身元保證人ヲ定メ誓約書(第三號書式)ヲ提出スヘシ

第十條 生徒ニハ學費補助トシテ毎月二十圓以内ヲ支給ス

第十一條 生徒ハ已ムヲ得サル事由アリテ所長ノ許可ヲ受ケタル場合ニ

非サレハ退學スルコトヲ得ス

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當シ成業ノ見込ナキ生徒ニ對シテハ退學ヲ命スルコトアルヘシ

- 一 品行又ハ成績ノ不良ナル者
- 二 疾病其ノ他ノ事故アル者

第十三條 前二條ノ規定ニ依リ退學シタル者ニハ支給シタル學費ノ全部又ハ一部ヲ償還セシムルコトアルヘシ

第十四條 修業期間ノ終ニ於テ修業試験ヲ行フ

修業試験ニ合格シタル者ニハ修業證書（第四號書式）ヲ授與ス

第十五條 修業者ハ統計局長ノ指定シタル場合ニハ二年內統計ノ事務ニ從事スル義務アルモノトス但シ特別ノ事情アル者ニ對シテハ統計局長ハ其ノ義務ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

第十五條ノ二 統計職員養成所ノ附屬事業トシテ統計講習會ヲ開催スルコトアルヘシ講習科目其ノ他必要ナル事項ハ其ノ都度之ヲ定ム

戶主（何某長次男兄弟等）

何 某

生年月日

學業

一 何年何月日某學校何科ヲ修業

一 何年何月日某學校何科ヲ卒業

職業

一 何年月日何廳何々ヲ命セラレ

一 何年月日何會社何々ニ從事

賞罰

右之通相違無之候也

年 月 日

右何

某印

第十六條 本規程ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ所長之ヲ定ム  
第一號書式（用紙半紙）

入學願書

現住所 道府縣郡市町村番地

何 某

生年月日

私儀貴養成所ニ入學志願ニ付別紙履歷書ヲ添へ相願候也

年 月 日

何 某印

統計職員養成所長殿

第二號書式（用紙半紙）

履歷書

本籍 道府縣郡市町村番地

現住所 道府縣郡市町村番地

第十六條 本規程ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ所長之ヲ定ム  
第一號書式（用紙半紙）

入學願書

現住所 道府縣郡市町村番地

何 某

生年月日

私儀貴養成所ニ入學志願ニ付別紙履歷書ヲ添へ相願候也  
年 月 日

何 某印

統計職員養成所長殿

第二號書式（用紙半紙）

履歷書

本籍 道府縣郡市町村番地  
現住所 道府縣郡市町村番地

第三號書式（用紙半紙）

誓約書

現住所 道府縣郡市町村番地

何 某  
生年月日

右者今般貴所ニ入學許可相成候ニ付テハ規則命令ヲ遵守シ在學中ハ專心勉勵可致ハ勿論萬一中途退學ノ場合ニハ身元保證人連帶ヲ以テ學費償還等ニ關スル責ニ任スヘク候仍テ身元保證人連署ヲ以テ誓約候

年 月 日

右 何 某印

本籍 道府縣郡市町村番地  
現住所 道府縣郡市町村番地  
職業

身元保證人 何 某印  
生年月日

統計職員養成所長殿

第四號書式

修業證書

第 號

府 縣

氏

生年月日 名

右者本局統計職員養成所ニ於テ所定ノ學科ヲ修了シタルコトヲ證ス

年 月 日

統計局長

大

計

閱

大 本 帝 國 政 府

局發第七七三號ノ二

老 五九九

昭和十六年十二月十八日

陸 軍 次 官 殿

内 閣 統 計 局 長



統計職員養成所ニ關スル件

十一月二十二日附陸普第八六二二號ヲ以テ貴管下ニ於ケル本局統計職員養成所入所志願者御推薦相成候處銓衡ノ結果御推薦通り左記ノ者ニ對シ入所許可致候條明年一月十日午前九時半本局ニ出頭セシメラレ度尙別紙入所ニ關スル心得本人ニ了知セシメ置カラルル様御配意相成度

記

1.5899



統計職員養成所入所ニ關スル心得

一、昭和十七年一月十日ハ開所式ヲ挙行スルニ付午前九時半迄ニ内閣統計局（東京市麻布區富士見町一番地、市電廣尾橋、市バス有栖川宮公園前下車南部坂上）ニ出頭ノコト

二、入所中隨時修養訓練ヲ實施スルコト可有之ニ付必ず和服（平常使用ノモノニシテ成ルベク粗服ノコト）及袴（有リ合セノモノニテ可、劍道袴等ニテモ差支ナシ）ヲ用意シ直クコト

三、講義ハ主トシテ筆記ニ依ルヲ以テ筆記具及ノートハ豫メ用意シ直クコト

ト

拾年保

企畫院一發第二三三號

昭和十六年十二月十七日

六四五

企畫院次長 宮本武之輔



陸軍省 木村多太郎 殿

重要事項ノ豫算統制ニ關スル件

昭和十七年度貴省所管一般會計及各特別會計追加豫算要求ニ就テ綜合國力ノ擴充運用ニ關スル重要事項ノ豫算統制上ノ必要ニ基キ左記ニ該當スル經費ニ付テハ事務處理ノ便宜ニ顧ミ豫メ其ノ大綱ニ付テ當院ノ同意ヲ得タル後大藏省ト折衝セラレルコトト致度從テ時機ヲ失セズ當院(第一部)ニ御連絡相成度此段得貴意候

一 重要資材ノ所ニテ主要ナル内容トモ  
二 重要資材ノ所ニテ主要ナル内容トモ  
三 重要資材ノ所ニテ主要ナル内容トモ  
四 重要資材ノ所ニテ主要ナル内容トモ  
五 重要資材ノ所ニテ主要ナル内容トモ  
六 重要資材ノ所ニテ主要ナル内容トモ

要研究

陸軍省 木村多太郎 殿  
企畫院一發第二三三號  
昭和十六年十二月十七日  
重要事項ノ豫算統制ニ關スル件  
昭和十七年度貴省所管一般會計及各特別會計追加豫算要求ニ就テ綜合國力ノ擴充運用ニ關スル重要事項ノ豫算統制上ノ必要ニ基キ左記ニ該當スル經費ニ付テハ事務處理ノ便宜ニ顧ミ豫メ其ノ大綱ニ付テ當院ノ同意ヲ得タル後大藏省ト折衝セラレルコトト致度從テ時機ヲ失セズ當院(第一部)ニ御連絡相成度此段得貴意候

企畫院ノ理官制ヲ本區陸軍省ノ同意ヲ得テ大藏省ト折衝セラレタル事トシテ本區陸軍省ノ同意ヲ得テ豫算統制上ノ便宜ニ顧ミ豫メ其ノ大綱ニ付テ當院ノ同意ヲ得タル後大藏省ト折衝セラレルコトト致度從テ時機ヲ失セズ當院(第一部)ニ御連絡相成度此段得貴意候

|               |  |       |  |             |  |             |  |               |  |         |  |      |  |
|---------------|--|-------|--|-------------|--|-------------|--|---------------|--|---------|--|------|--|
| (裁決)行決<br>覽回後 |  | 帶 速   |  | 執行指定        |  | 大臣          |  | 決裁指定          |  | 十年      |  | 保存期限 |  |
| 長(部)局         |  | 長(部)局 |  | 大臣          |  | 又...        |  | 件名            |  | 番受      |  | 領額   |  |
|               |  |       |  | 官 次 官 次 務 政 |  |             |  | 國家總動員法改正ニ関スル件 |  | 壹第六四二部  |  |      |  |
| 長 課           |  | 長 課   |  | 官 與 參       |  | 官 副 級 高     |  | 長 局 務 主       |  | 起元應(課名) |  |      |  |
|               |  |       |  | 武 藤         |  | 副 官         |  | 主 務           |  | 書記官     |  |      |  |
|               |  |       |  | 佐 藤         |  | 松 山         |  | 長 課 務 主       |  |         |  |      |  |
|               |  |       |  | 山 田         |  | 野 村         |  | 房 官 臣 大       |  |         |  |      |  |
|               |  |       |  | 神 原         |  | 主 務 局       |  | 課 局 務 主       |  |         |  |      |  |
|               |  |       |  | 了 結         |  | 領 受         |  | 出 提           |  | 領 受     |  | 號 番  |  |
|               |  |       |  | 昭 和         |  | 昭 和         |  | 昭 和           |  | 昭 和     |  |      |  |
|               |  |       |  | 年           |  | 年           |  | 年             |  | 年       |  |      |  |
|               |  |       |  | 十 二 月 廿 九 日 |  | 十 二 月 廿 六 日 |  | 月             |  | 月       |  |      |  |
|               |  |       |  | 日           |  | 日           |  | 日             |  | 日       |  |      |  |

政務官 書記官 回付(執行前)

拾年保

(執行後)

審案 筆記者



陸

軍

陸密

次官ヨリ企畫院次長宛回答

十二月十七日附企畫院一發第二三四  
號ヲ以テ照會ニ係ル首題ノ件  
別紙ノ通り回答ス

陸密第三九六八號

昭和拾六年三月廿六日

# 別紙

國家總動員法改正ニ關スル意見

昭和一九四二  
陸軍省

一 現行國家總動員法ノ性格ハ之ヲ變更スル必要ヲ認メズ（例ヘバ全權委任法ヲ發布スルガ如シ）其ノ不備ナル點ニ對シテハ之ガ補強ノ手段ヲ講ズルヲ以テ足レリトス

二 前則ニ關シテハ全般的ニ之ガ強化ノ餘地アルヲ認ム

（終）

陸軍 第一發第六四二一號

企畫院一發第二三四號

昭和十六年十二月十七日

企畫院次長 宮

本 武之輔

陸軍 本村 復太郎 殿

國家總動員法改正ニ關スル件

現下ノ時局ニ鑑ミ國家總動員法ノ完備ヲ期スル爲其ノ改正方ニ付至急  
考究スルノ要有之候條貴省關係ニ於テ改正ヲ必要トスル事項至急御研  
究ノ上本月二十五日迄ニ當院宛議案御送付相成度此段特貴意候



十二月廿九日

第一二六號

字

加



軍事

局長

拾年保

壹第六五二六

陸軍省  
昭和十六年十二月二十三日  
16.12.23  
午前  
陸軍省

昭和十六年十二月二十三日

星野内閣書記官

長

陸軍省  
16.12.23  
24  
軍事課

木村陸軍次官殿

杞書後香房用紙一件

通 牒

一 浮塵情報局官制

右明二十四日（水曜日）午前十時樞密院會議被相關候ニ付説明員參  
院ノ儀例ノ通取計相成度

追テ同院ヨリ申越ノ次第モ有之候間當日貴省ヨリ出席スベキ説明

字

員ハ成ルベク其ノ人数ヲ少クシ其ノ官職氏名折返シ電話又ハ文書  
ヲ以テ當方ヘ回報相煩度申添候

軍務局長 虫部 伴 松ム深ヘ電ワスミ  
(内閣)



保存期限

十年

決裁指定

局長

決行指定

第一號

政務次官  
參與官  
回付

決裁前後  
連帶  
課名

工政  
資源

銃砲

航空本務課

航空本務  
16.2.23  
受付

陸軍省  
16.2.1  
43

銃砲

6.2.5  
26

拾年保

受領  
番號

壹第六二六〇號  
其二共  
起元應(課)名

海軍省

件名

軍用資源秘密指定及秘匿措置命令ニ關スル件

大臣  
委

次官  
委

高級  
副官

主務副官  
主務課員

書記官

審案  
筆記者

主務  
局長

主務  
課長

主務課員

審案  
筆記者

主務局

受領  
出提

防衛甲第四〇號  
昭和十五年十二月二十四日  
昭和十六年三月十二日

連帶

局長

課長

工政  
銃砲  
航空本務

資源

大臣官房

受領  
了結

昭和十五年三月十二日  
昭和十六年三月十二日

決行後  
決回

局長

課長

工政  
銃砲  
航空本務

資源

(陸密) 大臣ヨリ海軍大臣 へ回答  
客年十二月二十日附官房機密第八三七二號、同第八三七二  
號ノ二、同第八三七二號ノ三ヲ以テ協議ニ係ル首題ノ  
件一異存無之此段及回答候

陸密第六三七號

昭和六年三月十二日

(陸密)

副官ヨリ陸軍兵器本部次長及陸軍

(陸軍燃料廠長)

航空本部總務部長へ通牒

首題ノ件ニ付別紙寫ノ通協議アリ異存ナキ旨回  
答セラレタルニ付承知相成度依命通牒ス

陸密第六三七號

昭和六年三月十二日

別紙

控

陸軍

官房機密第八三七二號

昭和十五年十二月二十一日

海軍大臣 及 川古志郎

寫

|      |      |      |        |
|------|------|------|--------|
| 朝鮮總督 | 拓務大臣 | 陸軍大臣 | 內閣總理大臣 |
|      |      |      | 公爵     |
|      | 秋田   | 東條英機 | 近衛文麿   |
|      | 南次郎  | 清殿   | 英機殿    |

軍用資源祕密指定及祕匿措置命令ニ關スル件協議

左記ノ通軍用資源祕密保護法第二條但書ノ規定ニ依リ同條第二號、第五號及第十五號ニ該當スル祕密ノ指定並ニ同法第五條及第六條ノ規定ニ依リ祕匿措置ノ命令ヲ爲シタル上同法第八條ヲ適用致度ニ付テハ同法施行令第一條、第八條、第十條及第十五條ノ規定ニ依リ協議ニ及ビ候

記

|                      |                        |                 |                 |
|----------------------|------------------------|-----------------|-----------------|
| 工場名                  | 法第二條ニ依ル<br>祕密指定事項      | 法第五條ニ依ル<br>遮蔽範圍 | 法第六條ニ依ル<br>禁止範圍 |
| 朝鮮石炭工業株式<br>會社灰岩工場   | 人造石油工業ニ依ル<br>生産油ニ關スルモノ | 石炭液化工場用反應筒      | 石炭液化工場          |
| 日本窒素肥料株式<br>會社NA燃料工場 | 海軍用燃料ニ關スル<br>モノ        | NA燃料工場          | NA燃料工場          |

寫送付先  
 京城在勤海軍武官  
 在興南燃料監督官

(終)

限

寫

軍

# 寫

官房機密第八三七二號ノ二

昭和十五年十二月二十一日

海軍大臣 及 川 古 志 郎

|        |    |     |    |   |
|--------|----|-----|----|---|
| 内閣總理大臣 | 公爵 | 近衛  | 文麿 | 殿 |
| 陸軍大臣   |    | 東條  | 英機 | 殿 |
| 拓務大臣   |    | 秋田  | 清殿 |   |
| 臺灣總督   |    | 長谷川 | 清殿 |   |

軍用資源祕密指定及祕匿措置命令ニ關スル件協議

左記ノ通軍用資源祕密保護法第二條但書ノ規定ニ依リ同條第三號、第五號及第十五號ニ該當スル祕密ノ指定並ニ同法第五條及第六條ノ規定ニ依リ祕匿措置ノ命令ヲ爲シタル上同法第八條ヲ適用致度ニ付テハ同法施行令第一條、第八條、第十條及第十五條ノ規定ニ依リ協議ニ及ビ候

記

陸軍

高

|                    |                     |                 |                   |
|--------------------|---------------------|-----------------|-------------------|
| 工場名                | 法第二條ニ依ル<br>秘密指定事項   | 法第五條ニ依ル<br>遮蔽範圍 | 法第六條ニ依ル<br>禁止制限範圍 |
| 臺灣拓殖株式會社<br>嘉義化學工場 | 海軍用特殊化學製品<br>ニ關スルモノ | 化學工場            | 化學工場              |

(寫送付先 臺北在勤海軍武官)

(終)

中華民國二十五年七月二十一日  
 臺灣拓殖株式會社  
 嘉義化學工場  
 第一〇二號ノ二  
 海軍大臣 啟

軍

# 寫

官房機密第八三七二號ノ三

昭和十五年十二月二十一日

海軍大臣 及 川 古志郎

|        |    |      |   |
|--------|----|------|---|
| 内閣總理大臣 | 公爵 | 近衛文麿 | 殿 |
| 陸軍大臣   |    | 東條英機 | 殿 |
| 商工大臣   |    | 小林一三 | 殿 |
| 厚生大臣   |    | 金光庸夫 | 殿 |

軍用資源祕密指定及祕匿措置命令ニ關スル件協議

左記ノ通軍用資源祕密保護法第二條但書ノ規定ニ依リ同條第二號、  
第三號、第五號及第十五號ニ該當スル祕密ノ指定並ニ同法第五條及  
第六條ノ規定ニ依リ祕匿措置ノ命令ヲ爲シタル上同法第八條ヲ適用  
致度ニ付テハ同法施行令第一條、第八條、第十條及第十五條ヲ規定  
ニ依リ協議ニ及ビ候

陸軍

記

| 工場名                 | 法第二條(依)秘密指定事項               | 法第五條(依)遮蔽範圍 | 法第六條(依)禁止制限範圍 |
|---------------------|-----------------------------|-------------|---------------|
| 日本水素工業株式會社<br>小名濱工場 | 秘密特許使用工場内設備<br>(第十五號)       | 秘密特許使用工場    | 秘密特許<br>使用工場  |
| 日本曹達株式會社二本<br>木工場   | 海軍用特殊化學製品ニ關<br>スモノ第三、五、十五號) | EE工場        | EE工場          |
| 保土谷化學工業株式會<br>社郡山工場 | 同                           | EE工場        | EE工場          |
| 壽重工業株式會社九條<br>工場    | 海軍用兵器ニ關スルモノ<br>(第二、十五號)     | /           | 兵器製造<br>組立工場  |
| マモル工業所              | 海軍用兵器ニ關スルモノ<br>(第二號)        | /           | /             |

(終)

昭和十五年五月十二日  
官報附録第八三十二號ノ三



官房機密第八三七二號

昭和十五年十二月二十一日

海軍大臣 及 川 古志郎

陸軍大臣

|      |      |      |      |      |
|------|------|------|------|------|
| 陸軍大臣 | 陸軍大臣 | 東條英機 | 近衛文麿 | 公爵   |
| 陸軍大臣 | 陸軍大臣 | 秋田清  | 近衛文麿 | 近衛文麿 |
| 陸軍大臣 | 陸軍大臣 | 南田次郎 | 近衛文麿 | 近衛文麿 |
| 陸軍大臣 | 陸軍大臣 | 朝鮮總督 | 近衛文麿 | 近衛文麿 |

軍用資源秘密指定及秘匿措置命令ニ關スル件  
協議

左記ノ通軍用資源秘密保護法第二條但書ノ規定ニ依リ同條第三號、第五號及第十五號ニ該當スル秘密ノ指定竝ニ同法第五條及第六條ノ規定ニ依リ秘匿措置ノ命令ヲ爲シタル上同法第八條ヲ適用致度ニ付テハ同法施行令第一條、第八條、第十條及第十五條ノ規定ニ依リ協議ニ及ビ候

記

海軍

(木田納)

石

|                     |                        |                 |                   |
|---------------------|------------------------|-----------------|-------------------|
| 工場名                 | 法第二條ニ依ル<br>秘密指定事項      | 法第五條ニ依ル<br>遮蔽範圍 | 法第六條ニ依ル<br>禁止制限範圍 |
| 朝鮮石炭工業株式<br>會社灰岩工場  | 人造石油工業ニ依ル<br>生産油ニ關スルモノ | 石炭液化工場用反應筒      | 石炭液化工場            |
| 日本窒素肥料株式<br>會社A燃料工場 | 海軍用燃料ニ關スル<br>モノ        | A燃料工場           | NNA燃料工場           |

寫送付先  
在興南燃料海軍武官  
在興南燃料海軍武官

(終)

海軍

(本田納) 石

卷之三

官房機密第八三七二號ノ二

昭和十五年十二月二十一日

海軍大臣 及 川 古志郎

陸軍大臣

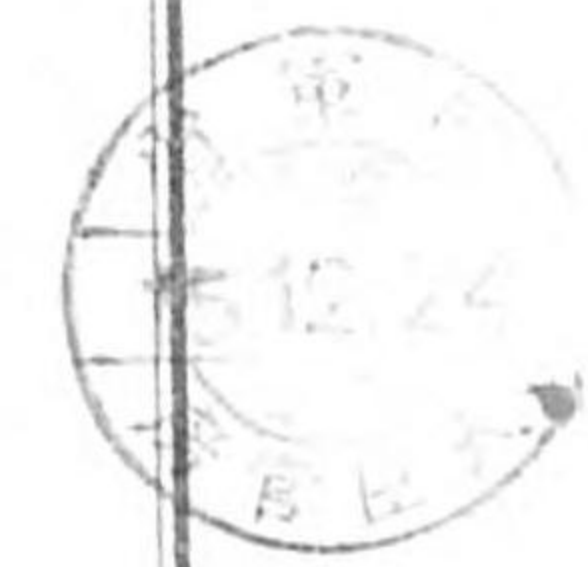
内閣總理大臣 公爵  
 陸軍大臣  
 拓務大臣  
 臺灣總督  
 近衛 英文  
 東條 英機  
 秋田 清  
 長谷川 清  
 陸軍大臣 殿  
 海軍大臣 殿  
 及 川 古志郎 殿



軍用資源秘密指定及秘匿措置命令ニ關スル件協議

左記ノ通軍用資源秘密保護法第二條但書ノ規定ニ依リ同條第三號、第五號及第十五號ニ該當スル秘密ノ指定竝ニ同法第五條及第六條ノ規定ニ依リ秘匿措置ノ命令ヲ爲シタル上同法第八條ヲ適用致度ニ付テハ同法施行令第一條、第八條、第十條及第十五條ノ規定ニ依リ協議ニ及ビ候

記



(木田納) 石

海軍

|                     |                   |                 |                   |
|---------------------|-------------------|-----------------|-------------------|
| 臺灣拓殖株式會社<br>嘉義化學工場  | 法第二條ニ依ル秘<br>密指定事項 | 法第五條ニ依ル<br>遮蔽範圍 | 法第六條ニ依ル<br>禁止制限範圍 |
| 海軍用特殊化學製品<br>ニ關スルモノ |                   |                 |                   |
| 化學工場                |                   |                 |                   |
| 化學工場                |                   |                 |                   |

(寫送付先  
臺北在勤海軍武官)

(終)

(木田納) 石

海軍

陸軍大臣

官房機密第八三七二號ノ三

昭和十五年十二月二十一日

海軍大臣 及 川 古志郎

陸軍大臣

内閣總理大臣 公爵  
陸軍大臣  
商工大臣  
厚生大臣  
近衛文麿  
東條英機  
小林一三  
小島三郎  
金光庸夫  
殿殿殿殿

軍用資源秘密指定及秘匿措置命令ニ關スル件協議

左記ノ通軍用資源秘密保護法第二條但書ノ規定ニ依リ同條第二號、第三號、第五號及第十五號ニ該當スル秘密ノ指定竝ニ同法第五條及第六條ノ規定ニ依リ秘匿措置ノ命令ヲ爲シタル上同法第八條ヲ適用致度ニ付テハ同法施行令第一條、第八條、第十條及第十五條ヲ規定ニ依リ協議ニ及ビ候

記

海軍

(木田納)

石



号(号)  
号(号)

号(号)

号(号)  
(号)

| 工場名                 | 法第一條ニ依ル秘密指定事項                 | 法第五條ニ依ル遮蔽範圍 | 法第六條ニ依ル禁止制限範圍 |
|---------------------|-------------------------------|-------------|---------------|
| 日本水素工業株式會社<br>小名濱工場 | 秘密特許使用工場内設備<br>(第十五號)         | 秘密特許使用工場    | 秘密特許使用工場      |
| 日本曹達株式會社二本<br>木工場   | 海軍用特殊化學製品ニ關<br>スルモノ(第三、五、十五號) | E E 工場      | E E 工場        |
| 保土谷化學工業株式會<br>社郡山工場 | 同                             | E E 工場      | E E 工場        |
| 壽重工業株式會社九條<br>工場    | 海軍用兵器ニ關スルモノ<br>(第二、十五號)       |             | 兵器製造組立設備      |
| マモル工業所              | 海軍用兵器ニ關スルモノ<br>(第二號)          |             |               |

(終)

海軍

(本田納) 石

保存期限

三年

決裁指定

局長

決行指定

原

第二

第一

政務大官回付  
參與官  
決裁前一連帶  
後一課名

工政

決行(決裁)後  
回覽課名

防衛

陸軍

陸軍

受領番號

壹第六三六七號

起元廳(課)名

司法省

件名

軍用資源秘密ニ係ル工場財團登記簿謄本  
交付ニ關スル件

大臣委

次官委

主務局長

原

主務課長

代

主務課員

大森

原

政務次官

參與官

書記官

審案  
筆記者

高級副官

原

主務副官  
官房御用掛

新

廣

大官房

了結

昭和  
年

十月一日

(裁決)行決  
覽回後

局長

長課

主務局

出提

昭和  
年

一月三十一日

運

局長

長課

防衛甲第二四號

帶

長課

(陸密)

大臣ヨリ司法大臣へ回答

客年十二月二十八日附  
司法省秘第一一五號ヲ以テ  
協議相成候首題ノ件當方ニ於テハ許可  
相成差支無之此段及回答候

追テ交付書類ノ取  
陸密第三〇三號  
照付奉二月五日

注意セシムル様出願人ニ指示相煩度申添

儀



軍機

防衛

川平

陸軍省 第一一五號

司法省 祕第一一五號

昭和十五年十二月二十八日

司法大臣

柳川平助

昭和十五年十二月二十九日 陸軍省 軍機

昭和十五年十二月二十九日 司法省 防衛課

陸軍大臣 東條英機 殿

軍用資源祕密ニ係ル工場財團登記簿  
簿本交付許可申請ニ關スル件

日産自動車株式會社ヨリ別紙ノ通軍用資源祕密ニ係ル工場財團登記簿簿本（工場財團目錄ノ謄寫ヲ除ク）壹通交付許可申請有之之ニ對シ許可致度軍用資源祕密保護法施行令第十三條第二項ニ依リ及協議候也

川平助發

寫

昭和十五年十二月二十三日

橫濱區裁判所神奈川出張所

裁判所書記 渡邊良誠

司法大臣柳川平助殿

軍用資源秘匿保護法、適用ヲ受ケタル工場財團登記簿  
謄本交付許可申請書進達、一件

橫濱市神奈川區室町貳番地

日産自動車株式会社

代表取締役 村上正輔

右昭和十五年十二月十四日左記工場財團登記簿謄本交付許可申請有之矣条別紙意見書相添比段及進達矣也

横濱市神奈川區賢所二番地

日産自動車株式会社

取締役社長 村上正輔

司法大臣 風見章 殿

*[Faint, illegible handwritten text, likely a letter or document content]*

變  
更  
契  
約  
證  
書

司  
法  
省

變更契約證書

第一條 日產自動車株式會社（以下債務者ト稱ス）ハ昭和拾貳年九月七日附工場財團並ニ有價證券擔保手形割引契約證書、昭和拾參年九月六日附變更契約證書及昭和四年八月參拾日附變更契約證書ニヨリ株式會社日本興業銀行（以下債權者ト稱ス）並ニ連帶保證人兼債權設定者滿洲重工業開發株式會社（以下單ニ保證人ト稱ス）トノ間ニ締結シタル極度金貳千萬圓也ノ手形割引契約事項中期限ヲ昭和拾五年九月五日トスルトアルヲ昭和拾六年九月五日トスルト變更センコトヲ申込ミ債權者ハ之ヲ承諾シタリ。

第二條 債務者ハ前條ニ依ル變更ノ登記手續ヲ速カニ完了

シ其登記簿謄本ヲ債權者ニ提出スヘシ

第三條 滿洲重工業開發株式會社ハ本契約ヲ承認シ引續キ

保證人ト為リ債務者ト連帶シテ債務者保證人間ノ保證  
委託契約ノ效力ニ拘ハラズ債務履行ノ責ニ任スヘキモ  
ノトス

第四條 本證書ノ作成並ニ登記其他本契約ニ關スル一切ノ費  
用ハ債務者ニ於テ之ヲ負擔スヘキモノトス

第五條 本契約ニ關シテハ總テ第一條記載契約證書ノ各約  
款ヲ當然適用スルモノトス

第六條 本契約ヲ證スル為メ證書正副各通ヲ作成シ債権者  
ハ其正本ヲ債務者及保證人ハ各其ノ副本ヲ保有スルモ  
ノトス

昭和拾五年九月四日

東京市麹町區丸ノ内壹丁目八番地壹

債権者 株式會社日本興業銀行

總裁 寶 來 市 松

橫濱市神奈川區寶町貳番地

債務者 日產自動車株式會社

取締役社長 村上 正輔

滿洲國新京特別市大同大街四百六號

保證人兼  
債權認許者

滿洲重工業開發株式會社

總裁 鮎川 義介

右原本卜相違無之候

昭和十五年十二月十四日

橫濱市神奈川區寶町貳番地

日產自動車株式會社

取締役社長 村上 正輔

昭和十五年十二月十二日

株式会社日本興業銀行貸付課

日産自動車株式会社 御中

拜啓益御隆昌奉賀候 陳者去ル九月四日附変更契約證書ニ基キ  
貴社工場財團担保極度金貳千萬圓也ノ手形割引契約事項中ノ  
期限ヲ昭和拾六年九月廿日ニ変更致候處右工場財團ニ對スル根柢  
當權変更附託登記事項ノ内容承知致度候ニ付至急工場財團  
登記簿謄本壹部御提出相成度此致得貴意候

敬具



意見書

本件簿本交付許可申請アリタルニ付調査ヲ爲シタル處昭和十二年九月  
七日株式會社日本興業銀行ヨリ三番抵支ニテ金貳千萬圓ノ平形ノ  
割引契約ニ因ル根抵支權ヲ設定シ事業資金トシテ貸借シ該契約  
公正證書ノ事項中登記済ノ旨ハ其ノ登記簿簿本ヲ債權者ニ提出  
スル旨一定メ同提出ヲ了シタリ 尔後昭和十二年九月十日及昭和  
十四年九月二日ノ兩度各々契約期限ノ延期ノ登記ヲ爲シ其ノ都度  
登記簿簿本ヲ債權者ニ提出シ居リタルハ事實ニ有之矣  
然レテ昭和十五年九月六日期限延期ノ登記ヲ爲シタル處該契約書  
第二條ノ登記済ノ旨ハ登記簿簿本ヲ債權者ニ提出スルハキ定メニ  
基キ之レカ履行ヲ爲スニ必要ナル趣ニ付事情不止得ル事ト思料  
仕矣

右意見及具申矣也

昭和十五年十二月二十三日

第三號

保存期限 三年  
 決裁指定 局長  
 決行指定

|                 |                 |                   |                   |         |          |                         |                    |  |
|-----------------|-----------------|-------------------|-------------------|---------|----------|-------------------------|--------------------|--|
| 房官臣大            |                 | 課局務主              |                   | 大臣<br>委 | 政務<br>次官 | 件名<br>軍用資源秘密保護法、掃影ニ關スル件 | 番受<br>領<br>壹第 四三 號 | 政務次官<br>回付<br>決裁前後連帶<br>交通<br>參事<br>鐵道<br>起元廳(課)名<br>鐵道省 |
| 了結              | 領受              | 出提                | 領受                |         |          |                         |                    |  |
| 昭和<br>年<br>五月一日 | 昭和<br>年<br>一月一日 | 昭和<br>年<br>月<br>日 | 昭和<br>年<br>月<br>日 | 防衛甲第八號  | 局長<br>主務 | 局長<br>主務                | 局長<br>主務           | 陸軍   |
| (裁決)行決<br>覽回後   |                 | 帶                 |                   | 連       | 局長<br>主務 | 副官                      | 書記官                | 審案<br>筆記者  |
| 局長              | 局長              | 局長                | 局長                | 局長      | 局長       | 局長                      | 局長                 |  |

拾三

陸軍

(陸憲)

大臣ヨリ鐵道大臣へ回答

一月八日附鐵軍秘第百二十七號ノ以テ協議ニ  
係ル旨題ノ件當方ニ於テ許可相成差支  
無之ニ付此段及回答候也

近テ許可期間ニ許可ヨリ昭和十六年三月

三十一日迄トセシ度申候

陸密第五三號

昭和拾六年壹月拾參日





鐵道大臣 小川 郷太郎

陸軍大臣 東 條 英 機



鐵軍秘第二〇七號

昭和十六年一月八日

鐵道大臣 小川 郷 太 郎



陸軍大臣 東 條 英 機 殿  
海軍大臣 及 川 古 志 郎 殿

(連名各通)

軍用資源秘密保護法ノ撮影ニ關シ別紙許可願出有之候處左記條件  
ヲ附スルニ於テハ支障無之モノト被認候條許可ノコトト致度此段  
及協議候

許可條件

記



ニ、撮影ノ成果物ハ其ノ公開以前ニ於テ仙臺鐵道局長ノ檢閲ヲ經ル

コト

前項ノ檢閲ヲ受ケタルモノハ其ノ公開ノ際「鐵道省檢閲濟」ト  
表示スルコト

三、右成果物ニシテ公開不適當ト認メラルモノアルトキハ之ヲ没  
收ス

青森驛長



構内立入撮影許可願

本籍地 東京市大森區久ヶ原町五八〇

現住所 青森市大野字長島二番地

職業 朝日新聞社東京本社青森通信部

主任 林 二郎

年齡三十九年



昭和十五年十二月七日

鐵道大臣 村田省藏 殿

左記ノ通り立入撮影致度ニ付許可相成度候也

左記

寫眞 撮影

青森縣青森市大字古川青森驛

青森驛構内一般

自昭和十五年十二月二十日

至昭和十六年十二月十九日

- 一 目的
- 二 事業場其ノ他ノ所在地名稱
- 三 區域
- 四 日時



- 五 方 法
- 六 使 用 器 具
- 七 作 業 者 ノ 住 所
- 八 作 業 ノ 場 所
- 九 成 果 物 ノ 員 数 及 ソ ノ 用 途
- 一〇 其 他

寫眞機ニテ撮影

オートミルター

青森市大野字長島二番地  
朝日新聞東京本社青森通信部内

遠藤謙

右同

二十四日

寫眞原畫紙數壹百枚新聞紙掲載用

構内立入撮影許可願

青森驛長

本籍地 東京市大森區久ヶ原町五八〇  
現住所 青森市大野字長島二番地  
職業 朝日新聞社東京本社青森通信部

主任 林 二郎

年齡三十九年

昭和十五年十二月七日

鐵道大臣 村田省藏 殿

左記ノ通り立入撮影致度ニ付許可相成度候也

左記

一 目的 寫眞撮影

二 事業場其ノ他ノ所在地名稱 青森縣青森市大字古川青森驛

三 區域 青森驛構内一般

四 日時 自昭和十五年十二月二十日

五 方法 至昭和十六年十二月十九日

寫眞機ニテ撮影



六 使用器具  
七 作業者ノ住所

ニエー・クラブ

青森市大野字長島二番地  
朝日新聞東京本社青森通信部内

八 作業ノ場所

右同

佐野 弘吉

二十五才

九 成果物ノ員數  
及ソノ用途

寫眞原畫概數壹百枚新聞紙掲載用

一〇 其他



(陸密)

大臣より鐵道大臣へ回答

一月八日附録軍秘第二號より以て協議ニ係ル  
有題ノ件一當方、於テハ許可相成差支  
無之ニ付此段及回答候

陸密第五四號

昭和六年一月十三日

入用 奏

奏

軍用家計部事務官ノ以テ、陸軍省

事務官 日 日 日

鐵道局

陸軍省

事務官

事務官

事務官

事務官

事務官

(陸密)

陸軍

秘

鐵軍秘第二號

昭和十六年一月八日

鐵道大臣 小川 郷太郎

陸軍大臣 東 條 英 機 殿  
海軍大臣 及 川 古志郎 殿  
(連名各通)

軍用資源秘密保護法ノ立入ニ關シ別紙許可願出有之候處同行爲ハ  
委託機關車修繕立會ノ爲止ムヲ得ザルモノト認メラレ候ニ付許可  
ノコトト致度此段及協議候

昭和十六年一月九日  
鐵道省

鐵道省  
16. 1. 9  
防衛課

陸

立入・許可願

本籍 山口縣美禰郡東厚保村第四一二番地

住所 宇部市東區榮町一丁目

職業 宇部鐵道株式會社

機關庫主任 田邊 季雄

五十二年



昭和十五年十一月五日

鐵道大臣 小川 鄉太郎 殿

左記ノ通立入致度ニ付許可相成度候也

左記

一、目 的 機關車一般修繕立會其ノ他ノ爲

一、工場事業場其ノ他ノ 小倉市板櫃

設備ノ所在地及名稱 門司鐵道局小倉工場

一、區 域 (圖書物件) 機關車職場

一、日 時(期 間)

自昭和十六年一月一日  
至昭和十六年三月三十一日

一、作業者ノ住所氏名及年齢 山口縣宇部市

宇部鐵道株式會社

技手 田邊季雄



五十三年



(陸密)

大臣ヨリ司法大臣へ回答

一月十三日附司法省秘第二號ヲ以テ協議相成候  
首題ノ件當方ニ於テハ許可相成差支無之此  
\*段及回答候

進テ交付書類 **陸密第法** 〇七號五八保照和共年一有五日  
セシムル様出願人ニ指示相煩度申添候  





工政



司法省  
民事局

祕第二號

昭和十六年一月十三日



陸軍省  
第一  
九

司法大臣 柳川平助

陸軍大臣 東條英機 殿

軍用資源祕密ニ係ル工場財團登記簿  
謄本交付許可申請ニ關スル件

富士電機製造株式會社ヨリ別紙ノ通軍用資源祕密ニ係ル工場財團登記簿謄本（工場財團目錄ノ謄寫ヲ除ク）壹通交付許可申請有之右ニ對シ許可致度軍用資源祕密保護法施行令第十三條第二項ニ依リ及協議候也



日本標準規格B列五號

寫

昭和拾五年拾貳月貳拾日

横濱区裁判所川崎出張所

裁判所書記 石井晴義

司法大臣 風見章 殿

昭和拾四年司法省令第二十六號第一條ノ登記簿謄本  
交付ニ関スル件

右昭和十五年十二月十九日左記工場財團登記簿謄本交付  
請求有之候處債權者ニ対シ抵当權登記済ナル証トシテ提  
出スルモノニ付交付差支ナキモノト認メラレ候ヘ共之ヲ許否何分御  
指示相成度此ノ段及稟伺候也

記

寫

軍用資源秘密保護法並保護條例第二十六條  
依ル工場財團登記簿謄本下付許可申請

一、申請者

川崎市田邊新田壹番地

富士電機製造株式會社

取締役社長 吉村 萬治郎

二、工場財團ノ表示

一、工場ノ名稱

富士電機製造株式會社川崎工場

二、工場ノ位置

川崎市田邊新田壹番地

三、主タル營業所

川崎市田邊新田壹番地

四、營業ノ種類

電機其他ノ機械器具ノ製造輸入及販賣

並ニ之ニ關聯スル代理販賣其他一切ノ

業務ヲ管ム

三、申請ノ目的及理由

工場財團ヲ抵當トシテ株式會社日本興業銀行ヨリ

寫

昭和拾五年拾貳月參日  
第五萬壹千四拾貳號

工場財團抵當金錢消費貸借契約證書謄本